

学位被授与者氏名	上瀧 安佐子 (こうたき あさこ)
論文題目	在宅医療推進における尊厳ある終末期の意味の再考 —支援者が抱えるジレンマを手がかりに
論文審査結果の要旨	<p>高齢社会である日本において、終末期のあり方の検討は必要不可欠の社会的課題である。不満があってもそれを表出せずに我慢する傾向の強い患者や福祉サービス利用者の声を掬い上げることは極めて重要である。また、医療費抑制の目的で推進される在宅医療・在宅死の課題を浮き彫りにする研究と受け止められる。</p> <p>研究目的、方法、倫理的配慮、参考文献等に問題はない。先行研究の分析も丁寧にされている。課題としては、終末期の在宅医療が時代を経てどのように変化したのか、もう少し考察で活かせれば良いのではないか。また、聞き取りの対象者として患者本人が含まれていると良かったと考えられる。さらに、ジレンマについて分析をする際に、その背景にある支援者の価値観を明確にしつつ記述する必要がある。しかし、全体的には現代の終末期医療の課題が明確になっており、今後のさらなる展開が期待される内容である。</p> <p>2023年2月16日に、北九州市立大学北方キャンパス3号館1階会議室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>